



白熱した議論の後には拍手で承認 (全体会)

他人を思う心を持つ 亡き友と論じた組合の強さ



牧野さん

【三鷹 武蔵野・土木設計・牧野照彦】第72回定期大会を迎えられず亡くなつた組合員に黙とうを捧げた後、大会が始まりました。この中の1人に、学生時代

第72回定期大会では、組織の拡大強化に全力を挙げて、過酷な建設労働の現状を打開し、賃金と仕事、暮らしの要求運動を前進させるため、2日間わたって議論・討論を行ないました。これを踏まえて、大会に参加した皆さんに、「週休2日制に代表される働き方改革や現場の労働環境などの働き方をどうしていくべきか」「賃金引き上げをどのように実現するか」について、感じたこと、考えたことを書いていただきました。

に良い部屋に住もうと家賃を出し合つて同棲した西田前本副委員長がいました。青春時代に夜を徹して世の中のことを論じ、道半ばで倒れ悔しいだらうと思います。白濁書記長が基調報告の中で、「多摩テクノロジビルディング」の現場火災で43人が被災、5人が亡くなったことを話した時、立て板に水が横板に雨垂れを流すようになったことに、土建組合の強さ、

仲間を思う心の結びつきを感じました。組合員を拡大するとき多くのメリットを伝えますが、真のメリットは、顔・名前を知らなくても人のことを思う心を持つ組合であると感じています。「他人のことを思う心を持つ」が、学生時代に西田と話した結論であり、そこを忘れずにチーム解決に結びつけることが重要だと思えます。

仲間の悲鳴を 笑いに変えて



佐藤さん

【新宿・電気・佐藤芳則通信員】スーパーゼネコンは最高益を上げ、給料は増え、笑いが止まらない。下支えで働くのが我々建設労働者である。事もあろうか夏場クーラーのない休憩室で、熱中症で倒れてしまった現実がある。ゼネコンは改善する気はなく、虫けらのように扱い、上から目線で働かせる。こんな劣悪な環境の中、低賃金で働かせ平気でいる。人として信じられない。我々建設業に携わる職人が、こんな酷使され文句も言えず悲鳴だけが聞こえてくる。闘つて学び、学んで闘うに頑張ろう。

若者や後継者のために CCUSの確立を



國松さん

【文京・内装・國松利行記】働き方改革については、建設キャリアアップシステム(CCUS)が今年4月に受付窓口が開かれ、登録作業を通じて本人認証、真正性確保、事業所と現場を確認する役割を担い、業界に深く関与し、建設産業に役立ることが期待されています。中、低賃金で働かせ平気でいる。人として信じられない。我々建設業に携わる職人が、こんな酷使され文句も言えず悲鳴だけが聞こえてくる。闘つて学び、学んで闘うに頑張ろう。

第72回大会 に参加して

後継者の育つ 建設産業に

1人でも多くの仲間を 組合が未来へ繋ぐ



木下さん

【町田・塗装・木下聡記】本部大会に初めて参加させて頂き、改めて東京土建の多岐に渡る提案・責務・仲間同士の繋がりに感動し、東京土建の運動に参加していなければ体験できない数多くの事案に改めて納得し、またこの運動をさらに広げていかないとけないと思いました。

数多くの提案があり、どれも重要性が高い事案で、新たな時代に突入していく今、なかでも1人でも多くの仲間を作るのが最重要の課題であり、我々の家族や子どもを守るためにも拡大運動をより一

支部を越えて情報交換 貴重な話を実践に



小笠原さん

【府中国 ディスカッションが印象的で、各支部いろいろと苦戦していることや、工夫されている話を伺いました。なかでも新加入者を増やすために活動家を増やすことが拡大につながる話を伺い、私自身も同調しており、分会でも春の拡大では、実践していきたいと思えます。若手がなかなか活動家にならない、なれないことは多くあると思えます。ただ今の活動家のメンバーが、分会問わず全体で協力をしていくことが近道ではないかと私は思います。また、今回大会にて東京土建についてまた一つ勉強させて頂けたと思います。他支部の方々と情報交換や交流を深め、私自身の成長につなげていけたらと思います。

組織があれば 前進できる



小野さん

【足立・研りこ わし・小野清記】私は都内の現場で、研りこわしを行なう事業所の代表をしております。主に大手ゼネ

世論巻き込む要求運動で 建設の地位向上へ



柴崎さん

【西東京・左官・柴崎憲一記】我々は移れるようになるまで時間がかかり、骨身を削って賃金に変えているのです。しかし、他産業より低い賃金水準であり、建設産業の地位向上に向け、世論を巻き込む要求運動を継続しなければと考えます。自分達の賃金を少しでも確保できるように税の問題を、法令ばかり先走るのではなく、週休2日を選択できる仕組みを目指し、無

選挙終われば ノーサイドに



野村さん

【品川・塗装・野村和好通信員】昨年に続き、今回も副委員長選が執り行なわれました。選挙自体、本部並び支部の活性化につながるのですが、支部でも役員選挙があるくらいの方がいいのではと毎年思っております。しかしながら南部ブロックから立候補者が出ておらず、結果によっては、がんじがらめの交流関係で義理を欠くこともあるので、選挙後はノーサイドとしていただければ幸いです。幸いなのですが、くれぐれも遺恨の残るようなことにはしたくないものです。初めて本部大会に参加して、これだけの組織の仲間がいれば、賃金運動も1歩でも2歩でも前進できると感じました。支部貫対部長として先頭に立つてがんばります。災害で実労働日を確保できるように学習する。単価の良い受注を選択できるように、CCUSでの能力評価等を利用して、労働者が適正な賃金ととともに、事業主の助けとなる支援を斡旋して行く必要があると考えます。最後に、役員選考については事前に無投票となるように努め、大切な大会議案の討論の時間を割くことのないようにしてほしい。